

信州大学経法学部 出前授業報告

社会事業部

去る9月12日(火)、信州大学経法学部(松本市)において出前講座を実施しました。

この事業は、土地家屋調査士の仕事を知ってもらい、知名度向上につなげようと長野県土地家屋調査士会が行っているもので、今回で5回目です。

今年度のテーマは「業務体験と測量体験」。学生たちの心に残る体験になればと、社会事業部が企画し、学生9名と信州大学経法学部・栗田晶教授に参加して頂きました。

第一部

①駐車場として使っている土地の一部に建物を建てることを想定し、ここに土地家屋調査士がどう関わっているかを学んで頂きました。あわせて松本市が土地家屋調査士制度発祥の地であることを紹介し、親しみを持って頂いたようです。

(講義内容)

- ・ 土地家屋調査士法、民法、不動産登記法など
- ・ 資料調査、物理的な現況把握、測量、登記申請など一連の業務の流れ
- ・ 土地家屋調査士の報酬について

②信州大学の松本キャンパスを例に、登記記録や地積測量図について学んで頂きました。

(講義内容)

- ・ 地積測量図の記載事項
- ・ 土地登記記録の見方
- ・ 登記記録の歴史的変遷

第二部

経法学部棟前の中庭をお借りして、2班に分かれてGNSSとトータルステーションの操作を行いました。学生たちは戸惑いながらもすぐに慣れた様子で、驚きと楽しさにあふれた実践講座となりました。

(講義内容)

- ・ GNSSによる基準点探索
- ・ トータルステーションによる復元点・分割点の設置

ご参加頂いた皆様にはお時間を割いて頂き、感謝申し上げます。ほんの一端ではありますが、私たち土地家屋調査士の業務を体験して頂いたことで、若い方々に少しでも魅力を感じて頂けたら幸いです。結びに、これからの皆様のご活躍を祈念して、ご報告とさせていただきます。